

目次

田上時子のエッセイ 地球環境を守るための光害対策	1
特集 エリザベスさんインタビュー	
スター・ペアレンティングが生まれるまで	2~3
活動報告 宝塚市立男女共同参画センターの指定管理者に決定/事業内容の変更に伴い、定款変更が認証されました	4
女性に対する暴力根絶のために「CIRCLES」講座終了! / スター・ペアレンティング フォローアップ講座&公開講座 開催予定/非暴力プログラム実施	5
リレーエッセイ 浜田良子/松野敬子	6
講座インフォメーション	7
会員の紹介・入会のおさそい	8
編集後記	8

田上時子のエッセイ

地球環境を守るための光害対策

地方講演に行くと思わぬ副産物がよくある。

町ぐるみで「光害」対策で取組んでいる兵庫県佐用郡佐用町で、光害についてレクチャーを受け、理想的な外灯を見せてもらった。

光による公害を「光害（ひかりがい）」と言う。

NASAの軍事気象衛星が撮影した夜の地球の画像がインターネットでも見るができるが、地球の夜間照明は空まで照らしており、日本は光害大国であることが分かる。

日本は電気をたくさん使っている国である。現在の電力の50%以上を火力発電に頼っているが、火力発電は石油や石炭を燃やして電力を作る。電力を使えば使うほど石油や石炭をたくさん燃やすことになり、結果、二酸化炭素などを含んだ煙も出ること、空気を汚し、地球温暖化も進む。

日本の都市部で満天の星空が見えなくなってどれぐらいたつだろう。

子どもの頃、家に風呂はなく、家族で銭湯に通っていた。寒い冬はそれなりに辛かったが、それでも

風呂帰りに見る満天の星空にはずいぶん癒された。

子どもなりに苦しみや悩みが多々あったが、満天の星空を見ては、宇宙の存在と比べて人間の営みや人間のちっぽけさを感じて自分自身を慰めたものだった。

昭和30年代、星は5、4等星まで、天の川も見えたと記憶している。

佐用町で学んだことは、不用な時は灯を消し、深夜まで強い灯をともしない工夫をすることは星空を守るだけでなく、環境に優しい省エネ対策にもなるという。夜間照明も空を照らすのではなく、減光笠などを取り付けたたり、照明の角度を変えることにより、必要な箇所だけを明るくする工夫ができるという。

星空を守るために、地球環境を守るために、光害対策に積極的でありたいと思う。